

学校目標・経営方針 （本校の学校教育目標）	①自立を目指し、社会の中で豊かにたくましく生きていく力を育てる。 ②児童生徒一人一人の能力や個性を最大限に引き出し生かす。 ③確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む。
--------------------------	---

山梨県立ふじざくら支援学校校長 金丸 実奈江

本年度の重点目標	1 主体性・意欲:様々な体験活動を通して興味・関心の幅を広げ、主体的で意欲的に生活・行動する力を養う。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4	良くできている。
	2 人間関係コミュニケーション:教師や友達との関わりを通して、よりよい人間関係を構築するための基盤を培う。		B	概ね達成できた。(6割以上)		3	できている。
	3 確かな学力:一人一人の状態等に応じたきめ細かい学習指導により、基礎的・基本的な学力を育成する。		C	不十分である。(4割以上)		2	あまりできていない。
	4 豊かな心:自己肯定感を高めると共に、明るく前向きに生き抜く、たくましくしなやかな心を育てる。		D	達成できなかった。(4割以下)		1	できていない。
	5 健やかな体・健康:体力や運動機能の向上を図ると共に、自ら健康を保持・管理する態度や能力を育てる。						
	6 危険回避能力・安全:災害を想定した実践的訓練等を通して、危険回避能力や安全に生活・行動する力を養う。						
	7 勤労観・職業観:キャリア教育により勤労観・職業観を養うと共に、社会生活に必要な資質や能力を育てる。						
	8 情報活用能力:タブレット端末などのICT機器を学習や生活の中で上手に活用する能力を育てる。						

自 己 評 価							学校関係者評価	
本年度の重点目標				年度末評価(1月31日現在)			実施日 (令和7年2月17日)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	主体性・意欲 様々な体験活動を通して興味・関心の幅を広げ、主体的で意欲的に生活・行動する力を養う。	保護者や地域、関係機関等と連携しながら、学校の教育活動全体を通して、児童生徒一人一人の主体的で意欲的に行動するための力を育てる。	【学部】【教務】【相談支援】 ・学校評価アンケート ・各行事や体験活動後の事後学習 ・行事の目標の明確化と行事の編成等 ・各種お便り等の発行	・個々の中心的な課題を明確にしなが ら、実態に応じた指導を継続する中で、ほとんどの児童が、自分でできることや主体的に行動する場面が増えた。 ・各授業や行事、体験学習に生徒が興味や関心をもって向かい、活動の幅を広げることができた。また、生徒達が主体的に、自ら工夫して行動する場面も多くみられた。 ・前年踏襲の観点ではなく、その必要性や効果を検討しながら、教育課程を設定することができた。 ・保護者等への適切な通知作成を心がけるとともに、学部主事、関係分掌と連携を図りながら、諸課題に対して改善策を検討し、児童生徒の教育活動が円滑に行われるように取り組んだ。	A	学習や生活の場面で、児童生徒達が主体的に考え、行動できる場面を更に増やせるように、計画的に指導を進めると共に、教員間で共通確認し統一した指導を行えるようにする。	3	・自己評価結果から重点目標が達成されたことがうかがえる。 ・日々の教育活動がコロナ禍前の水準に戻ったことで、各授業や学校行事、体験学習などが支障なく実施されたことは良かったと思う。日々の授業をはじめ、学園祭や児生会活動、修学旅行、校外学習等を通して、児童生徒は集団での活動や直接的な体験ができ、主体的な行動が増えたことには大きな意味がある。児童生徒は、直接的な経験から多くのことを学ぶので、今後も積極的に取り組んでいただきたい。 ・中学部、高等部の1単位時間50分への変更について、実施の検証を着実に行ってほしい。 ・外部専門家からの指導助言を、教師が自身の取り組みに生かすことで専門性は向上する。また、その取組を教員間で共有することも必要である。活用方法の検討をお願いしたい。 ・参観させていただいた授業の様子、学園祭での発表や展示物、各学部の通信等を通して、児童・生徒の皆さんが主体的・意欲的に取り組んでいる様子が伝わってきました。 ・今年度から中学部と高等部が「50分授業」に移行しましたが、学部・分掌の学校評価や教職員のアンケートに記載されているとおり、情報共有や検討の必要性を感じます。特に「5分休みや下校時間への影響など時間に追われている印象をもつ」という意見については、対応策の検討をお願いしたいと思います。 ・自己評価結果の記述から具体的方策の「保護者や地域、関係機関等の連携」との関りが読み取れない。方策が適していたかの検証が必要かもしれない。
2	人間関係・コミュニケーション 教師や友達との関わりを通して、よりよい人間関係を構築するための基盤を培う。	児童生徒一人一人の発達段階や生活年齢に応じて、様々な人と関わりながらより良い人間関係作りのための基礎となる人や物とかかわる力や自分の意思や気持ちを表現する力を育てる。	【交流・渉外】【総務】【学部】 ・学校評価アンケート ・各行事等の児童生徒の意見 ・交流活動やPTA行事の実施	・学習や行事を通し、個々の児童生徒が自分の役割を意識しながら活動することができた。様々な集団の中で、自分なりに気持ちを表現する様子が見られた。 ・学校間交流、地域交流、居住地交流のすべてを対面で実施することができた。高等部は学年ごとの地域交流を行うことができ、花植えや地域の清掃活動を通して、地域の一員としての気持ちを育むことができた。また、人間関係を広げること もできた。	B	・児童の実態や生活年齢に応じたねらいを見極めつつ、学部全体で適切な人との関わり方について意識するよう努めていく。 ・自分の気持ちや考える場面を設定し、言葉やICT機器等を活用し、実践しながら表現できるようにする。指導について担任間、学部教員間で共有し統一した指導を目指す。 ・交流を実施するにあたり、交流先への障害理解を深める啓発活動等を検討していく。	3	・自己評価結果から行事による重点目標が概ね達成できたことがうかがえる。日常の授業や生活の中で培われた力が行事で発揮されたと解釈したい。 ・学校行事における集団活動では、児童生徒が大集団の中で先輩や後輩、友達と共に活動することを通して、社会性を身につけることができる。自分の役割を意識しながら気持ちを表現することができたことは良かったと思う。 ・学校間交流、地域交流、居住地校交流は、全てを直接交流で実施でき良かったと思う。交流及び共同学習は、直接交流を行うことでお互いの存在を知り、相手を思いやり尊重する気持ちを育てるために必要なものである。今後も無理なく続けていけるように提携先と連携を密に図ってほしい。 ・児童・生徒の発達段階・生活年齢に応じて、また障害特性や実態に合わせICT機器等も活用し、自分の気持ちを伝えたり、より良い人間関係を築くことができるように、先生方が指導し実践されてきた成果は、保護者の学校評価アンケートの自由記述からもうかがえます。今後も家庭と連携し、担任間、学部教員間で情報共有し指導をしていただきたいと思います。

自 己 評 価					
	本年度の重点目標			年度末評価(1月31日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度 成果と次年度への課題・改善策
3	確かな学力 一人一人の状態等に応じたきめ細かい学習指導により、基礎的・基本的な学力を育成する。	校内研究や研修を通し、教師の指導力向上を図るとともに、児童生徒一人一人に応じた基礎的・基本的な学力の定着や技術の習得を図る。	【研究・研修】【学部】	・授業反省や学部研究を通して、児童の実態や課題をグループで共通確認しながら授業づくりに生かすよう努め、個々の学習の伸長や定着を図ることができた。 ・生徒個々の実態シートを基に、学習段階を見極め、担任間で指導方法の共通確認を行いながら指導した。授業毎にPDCAサイクルを繰り返すことで、学習の定着を図ることができた。	A ・継続して基礎的学力の定着を図り、身に付けた力を各授業や生活の中で活用できるようにしていく。教員間では授業のPDCAサイクルと情報共有を意識できるように努める。 ・iPad研究について、関係する他の分掌と連携し、教員一人一人の学びを深められるようにすると共に、今後の授業実践において、活用できるような研究のまとめとなるように努める。
			・学校評価アンケート ・各種研修会や授業反省会の実施 ・校内研究の実施 ・外部機関の研修会等の紹介	・研究と運動しながら、効果的なICT機器の活用や、実態に応じた授業の工夫について研鑽を積むことができた。 ・ICT研修では、校内の現状から、microsoft teamsやiPadの基礎的な操作や活用について取り上げ、教員一人一人のスキルアップを促すことができた。学部研究では、教員が一人一事例を必ず作成・報告し、校内研究に必要な基礎資料を残すことができた。	
4	豊かな心 自己肯定感を高めると共に、明るく前向きに生き抜く、たくましくなやかな心を育てる。	学校行事や児童生徒会活動等を通して、児童生徒の自己肯定感を育むとともに、互いに認め合ったり、挑戦したり、努力したりする気持ちを育む。	【生徒指導】【学部】【管理職】	・校外の方々と関わる活動を可能な限り設定し、季節の行事や自然、芸術に触れる学習を行った。友達と一緒に意欲的に取り組もうとする児童の姿が見られた。 ・生徒の気持ちを大切にし、達成感が得られる指導を行った。また、専門家からの助言を参考に肯定的な言葉がけを実践することで、生徒間において友達を認め、受け入れる姿がみられるようになり、トラブル減に繋がった。 ・生徒会総会や学園祭等では、一人一人の役員が自分の役割に責任をもって取り組むことができた。	B ・今後も、体験活動や他者と関わる場면을積極的に設定し、児童の豊かな学びにつなげていくようにする。 ・心身の変化が著しい時期の集団であるため、生徒の様子を観察しながら指導を進めると共に、専門家を積極的に活用し、思春期の生徒対応を行っていく。 ・研究・研修部と連携し、校内で人権教育や生徒指導提要等の研修が実施できるように検討していく。
			・学校評価アンケート ・いじめアンケート ・児童生徒会活動の実施と振り返り ・自己観察書への記載		
5	健やかな体・健康 体力や運動機能の向上を図ると共に、自ら健康を保持・管理する態度や能力を育てる。	児童生徒の発達段階に応じた体力や運動機能の維持向上、保健教育や食育等の推進を図る。	【保健】【体育】	・新たな対外的行事や近年参加していなかった大会への参加に向けた練習の体制作りができた。 ・給食や保健関係の取り組み、ほげんだよりをホームページに掲載することで、保護者や外部への情報共有につなげた。 ・食育推進動画や実物掲示等を通して、充実した学校給食を運営した。	A ・校内の体育活動をより充実させられるよう教材の紹介や活用方法、活動場所の安全な使用の仕方などについて発信していく。 ・アンケート結果や職員のニーズに合わせた、より有意義な保健に関する各種訓練や研修会を実施する。
			・学校評価アンケート ・各種マニュアルの逐次改訂 ・救急体制に備えた訓練や研修会の実施 ・水曜陸上や夏季陸上等の実施		

学校関係者評価	
実施日（令和7年2月17日）	
評価	意見・要望等
4	・授業を参観した際、全ての子どもが学習に集中している様子から子どもの実態を把握した上での指導が日々行われていることがわかった。 ・よりよい授業を作り上げるためには、児童生徒の実態把握を的確に行い、指導課題やかかわりの手立て(原則)、評価方法等を明確にし、教員間で共有することが必要である。そして、個別の指導計画に基づいたPDCAサイクルによる授業実践を行っていくことがよりよい授業づくりにつながる。今年度は、校内研究を上手に活用しながら授業づくりに取り組むことができたので、今後もより効率的に時間を使うように工夫をして、授業づくりや教材作製に取り組んでいただきたい。 ・ふじざくら支援学校における教員の専門性とは何かを明確にし、専門性を向上させるための具体的な手立てを示すことも必要なのではないか。 ・学部研究・校内研究を通して、先生方一人ひとりが授業のスキル向上やIpadの活用スキルの向上に取り組まれ、事例研究を通して実態に応じた授業実践に繋がる成果を得られたことが評価でき、今後の実践に期待します。
	・肯定的な言葉がけが、子どもに浸透したことにより重点目標の達成に繋がったことがうかがえた。具体的方策が重点目標と同じ文言が使用されており、具体的な方策が教職員につかみにくかったのでは無いかと感じた。肯定的な言葉がけは、教師と子ども間、子ども間の双方の受け止めで良いか？ ・児生会活動は、役員が主体性を発揮できる大事な場である。役割意識や責任感を育てることができる。また、人は「誰かのために」という気持ちがある時、大きな力を発揮することができ、達成感を得ることができる。それが自己肯定感を高めることにつながる。自己肯定感は、絶対値であり困難に立ち向かうパワーの源である。今後も学校生活全体を通して、児童生徒を認める、褒める、励ますことを通して、温かな居心地の良い学校・学級づくりに取り組んでいただきたい。 ・「自己肯定感を高めること」や「自己と他者を認める心を育成する」ためには、権利擁護の視点がとても重要だと感じます。人権や道徳教育への取り組みに期待します。 ・発達段階や障害特性により、指導に難しさを感じるケースがあると思いますが、外部専門家の助言等を活用し、今後も教職員間で適切な支援を共有し進めていただけるように願います。
4	・行事を利用して運動欲を刺激して体力の維持向上にあたった様子がうかがえた。 ・事故を未然に防ぐためには、ヒヤリハット記録を収集・蓄積し、原因を分析して先生方が共有することが欠かせない。児童生徒の命に直結することもあり、教員が常に意識して行動できるような取組が必要であるが、それができているので、今後も継続していただきたい。KYT(危険予知訓練)の導入を検討してはいかがだろうか。 ・年間を通して様々な感染症が流行し、児童生徒の健康管理に気の抜けない年度であったと思います。ほげんだよりをホームページで見せていただきましたが、興味をもちやすく分かりやすく工夫されており感心しました。 ・対外的なスポーツの行事や大会に参加する機会が今年度増えたことは、生徒の経験の広がりが張り合いにもなり、良かったと思います。

自 己 評 価					
	本年度の重点目標			年度末評価（1月31日現在）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度 成果と次年度への課題・改善策
6	危険回避能力・安全災害を想定した実践的訓練等を通して、危険回避能力や安全に生活・行動する力を養う。	児童生徒の交通安全等の啓発や防災教育の充実、実践的な訓練の実施等を通して安全に生活する力を育む。	【防災・環境】【生徒指導】	・自転車を利用している生徒を対象に、臨時の交通安全集会を開き、ヘルメット着用の義務と大切さについて確認し、家庭へも呼びかけた。 ・年3回の避難訓練を全て実施でき、それぞれの訓練の反省から実際の場面を想定した改善点等を確認することができた。 ・富士山噴火時に備えた自然災害対策講習会を行うことができた。	A ・今年度同様、交通安全教室を実施していく。 ・より実践的な避難訓練を実施し、緊急時に迅速な対応をすることができるようにする。
			・学校評価アンケート　・ひやりハット事例の集積 ・校内安全点検、ハザードマップを活用した確認 ・ヘルメットの日、各種訓練の実施 ・交通安全等の啓発指導（含　自転車、バス、自主通）		
7	勤労観・職業観 キャリア教育により勤労観・職業観を養うと共に、社会生活に必要な資質や能力を育てる。	児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の充実を図る。	【進路】	・各学部で進路が中心となり、キャリアパスポートをまとめ、学校としてキャリア計画の見直しを行うことができた。 ・学部ごとに学習会を開催したが、参加者も減少しており保護者のニーズに合った設定日を検討する必要がある。	A ・保護者向け学習会の出席者が減少している。保護者が進路の情報をいつでも確認できるような保護者のニーズに合わせた情報発信を検討していく。また、来年度からは学部全体で保護者学習会を実施し、個々の質問に対しては、適宜対応していくことで安心して進路選択ができるように支援していく。
			・学校評価アンケート ・キャリアパスポートの活用　・教育相談等 ・各学部対象の進路説明会の実施 ・実習先からの学校に対する意見等		
8	情報活用能力 タブレット端末などのICT機器を学習や生活の中で上手に活用する能力を育てる。	児童生徒がICT機器に触れる機会を促進し、それらを活用する能力を育む。	【情報・教養】【管理職】	・ミニ研究会でのPPT教材作成や、teamsでの情報提供等を実施した。 ・ICT支援員と協力し、新ハイユースPCの入れ替えに伴い、取り扱い説明会の設定やteamsでの情報提供の実施、テレワーク事前登録の設定補助を実施した。	A ・学校生活内でiPadに触れる機会が増え、日常的に活用できている。今後は、学校以外でも活用できるよう、持ち帰りの推進や家庭での使い方についての取り組みを進めると良い。 ・teamsでの情報提供よりも、短時間でも実際に操作する時間を設けた方が教職員のICT活用の底上げが期待できる。
			・学校評価アンケート ・ICT活用能力実態チェックシート ・教職員の一人一実践の提出 ・自己観察書への記載		

学校関係者評価	
実施日　（令和7年2月17日）	
評価	意見・要望等
3	・集中豪雨や地震による災害が全国各地で頻発している。また、ふじざくら支援学校の地域の特性として富士山の噴火も想定される。富士山の噴火に備えた自然災害対策講習会を実施したことはよいと思う。災害はいつ起こるか分からないので、災害時に迅速に対処できるように、今後も避難訓練に取り組んでほしい。 能登半島地震でも問題になっているるように、障害児の避難場所について、地域との協議を行う必要があるのではないか。また、非常時の電源の確保について、特に医療的ケアが必要な児童生徒にとっては命に直結するので必要であるが、その対応はできているのか。 ・「ヘルメットの日」や保護者との災害伝言ダイヤルでの連絡訓練など、防災に対しての意識を高める取り組みや、訓練後の教職員・保護者への事後アンケートの集計を行い課題点について検討する取り組みがされており、実際に災害が起こったときに生かされるのではないかと感じます。地域の行政との繋がりも必要性があれば検討していただけると良いと思います。 ・児童生徒の安全な登校については、保護者アンケートの結果を受け、対策をお願いしたいと思います。 ・自転車のヘルメット着用が義務化されて1年が経過したので、安全指導を重ねることで安全指導が徹底されると思う。 ・富士山噴火時の対応は地域から欠かすことができない大切な指導内容と思う。
3	・発達段階に合わせたキャリア教育の系統性を見直したことで今後の指導の充実が期待できる。 ・高等部卒業後の進路については、保護者のニーズを把握しておくこと。そして、保護者に対して小学部の段階から、地域の実情を知ってもらい、卒業までに何が必要なのか、課題は何かということを考えてもらえるような取組を進める必要があると思う。 ・キャリアパスポートの作成を通して、キャリア計画の見直しができたことは良かったと思う。キャリアパスポートは、児童生徒が作成と振り返りを通して自分自身について考えるためのものであることをしっかりと押さえて指導に当たりたい。 ・キャリアパスポートの有効活用について、各学部で進路が中心となり、学校としてのキャリアパスポート計画が見直されたことは良いと思います。 ・保護者向け学習会の出席者の減少という現状に対して、情報発信の方法など対策の検討をお願いしたいと思います。 ・生徒の適性や実態に合った進路選択ができるよう、今後も取り組んでいただきたいと思います。
4	・現状や今日的な課題にかかわる教員の研修や子供への指導にあたっていることがうかがえる。 ・ICTを活用した学習活動については、成果が出てきていると思う。学校生活でipadやVOCAを日常的に活用するなど、児童生徒の実態や学習状況に応じた活用ができていると思う。 ・学校だけの使用に限るのではなく、児童生徒の生活を豊かにするような使い方を工夫してほしい。 ・児童生徒が日常生活でICT機器に触れる機会を増やし、授業等で活用することにより、学習に対する意欲を高めたり、理解を深める効果があると共に、自身の表現方法の豊かさに繋がると感じるので、今後も有効に活用できるよう取り組んでいただきたいと思います。

留意点　（1）重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
（2）学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。